

地对協コーナー

広島県地对協三本の矢50年

広島大学大学院医歯薬保健学研究科 小児科学 教授
広島県地域保健対策協議会 副会長

小林 正夫



広島県地域保健対策協議会(地对協)は、1969年(昭和44年)の発足以来、本年で50周年を迎えることとなりました。広島県における保健・医療・福祉分野での多くの調査、協議、研究活動を通して、県の公衆衛生の普及及び向上に向けた活動につきまして、敬意を表しますとともに、ますますの発展を期待しています。本協議会は、広島県・広島市行政、広島県医師会、ならびに広島大学が三本の矢で結束した活動を行ってきており、通称、地对協として医療関係者には親しまれてきています。本邦で50年前からこのような取り組みを行い、成果を出している都道府県は例をみないものであり、他府県からも大きな評価を受けていることは、広島県の誇りとして、関係者みなさんが一致するところでしょう。

個人的には広島大学医学部小児科の一員として一委員会の委員として参加したのが1990年代半ばであったように記憶していますので、ちょうど協議会歴史の半分に携わってきたように思います。その後、広島大学小児科を任されてからの15年、協議会副会長としてのこの5年は深く関与させていただきました。私ども大学に属するものとしては、広島県唯一の医育機関であることから、地域の各診療科の医療体制の構築が一番の課題となります。特に、医師不足、医師確保が難しくなっている現在、医局の中で頭を悩ませるだけでは解決出来ない問題をこの地对協を通して、みなさんからお力添えいただけることにはほんとうに感謝しています。各診療科の事情、課題等を各医療圏のみなさんと議論し、改善の方向を、行政含めて一緒に考えていけること、地对協のありがたさを感じてきた15年です。また、地对協の毎年の委員会設置とそのテーマは他診療科の実情や県全体の医療の方向性を横断的に学ぶ、非常に良い機会となっています。

このような地对協活動、委員会設置と企画、調査(委員会開催)、結果報告と毎年の成果まとめ、広島医学での報告書出版、そして次の課題への取り組みという、地对協50年のPDCAサイクルの確立はほんとうに高く評価されるに値するものと思っています。これらの業務内容の多くは、県医師会地域医療課のみなさんならびに行政のみなさんのご尽力でなされてきていますことに心から感謝申し上げますとともに、今後のお力添えもよろしく願いいたします。大学の協力が若干少ない点、紙面を借りて陳謝申し上げます。

近年の保健・医療・福祉の課題、山積状態ですが、厚労省の提案に伴った特別な予算確保が必要となります。この点につきましても地道な地对協活動は大きな力を発揮します。三本の矢の一層のチームワークと、広島県医師会会員はじめ多くの県民からの地对協活動へのご意見、ご協力、ご支援を賜りたいと思いますので、よろしく願いいたします。50年ならず100年を目指した広島県地对協活動の発展に期待しています。